石川県の災害復旧について

石川県土木部河川課防災海岸グループ

１．はじめに

⑴　石川県の概要

本県は、北陸地方の中部に位置し、東は富山、岐阜の両県に、南は福井県に接しており、北に向かって能登半島が日本海に突出しています。地形は、西南から東北に向かって細長く、海岸線は約580kmの延長を有し、“日本でここだけ”の車やバイクが走行できる砂浜である「千里浜なぎさドライブウェイ」、広大な原生林と豊富な高山植物群を誇る白山国立公園、美しく長い海岸線を持つ能登半島国定公園や越前加賀海岸国定公園、さらには数多くの温泉や「兼六園」に代表される名所旧跡など、豊かな自然と風土に恵まれています。

２．石川県の主な水害

本県の河川は、南北に細長い地形特性から山間部では急勾配、平野部から河口までは緩勾配で延長が短いという特徴を有しています。

昭和９年７月の手取川の大氾濫をはじめとして、幾度も水害に見舞われてきました。

近年では、平成20年７月に、金沢市山間部で時間雨量138mm/hの記録的な豪雨により、二級河川浅野川が氾濫し、金沢市中心部に甚大な被害が発生しました。

また、平成30年７月から９月にかけての豪雨では、県内111の雨量観測所のうち、約４分の１にあたる28箇所で観測史上最大となる24時間雨量を記録し、二級河川米町川で床上14戸、床下148戸の浸水被害が発生するなど、過去10年で最大の被害となりました。

近年発生した主な浸水被害

年　　月	被害状況
平成30年９月　豪雨	米町川（志賀町）で床上14戸、床下148戸、日用川（七尾市）で床上10戸、床下41戸の浸水
平成25年８月　豪雨	能瀬川（津幡町）で床下16戸、宇ノ気川（かほく市）で床下14戸の浸水
平成20年７月　豪雨	浅野川（金沢市）で床上507戸、床下1,469戸の浸水
平成18年７月　梅雨前線豪雨	柴山潟（加賀市）で床上11戸、床下97戸の浸水
平成10年９月　台風７号	県内の浸水家屋1,765戸、動橋川（加賀市）の堤防が欠壊し床上40戸、床下119戸の浸水

兼六園（金沢市）

千里浜海岸（羽咋市・宝達志水町）

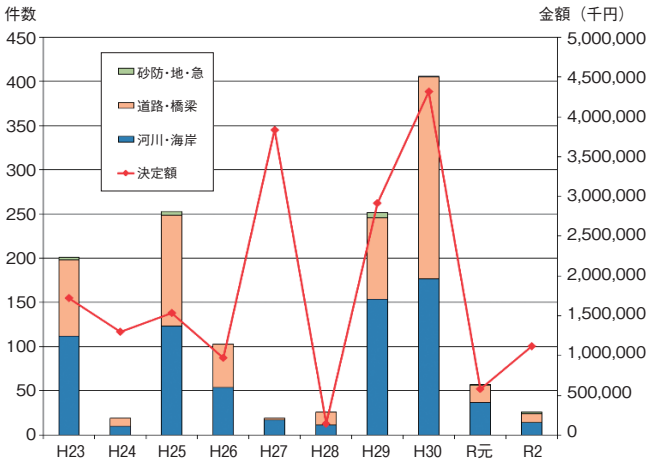
３．災害査定について

令和２年は、１月の冬期風浪による海岸災に始まり、９月の豪雨災害の５次査定まで実施し、1,116,020千円を査定決定していただきました。

このうち新型コロナの影響で、２次査定（５月）については、３者完全非接触型とし、資料の送付やメール・電話での査定を実施し、５次査定（11月）については県庁（査定官・立会官：金沢市）と奥能登土木総合事務所（申請者：県庁から約２時間）および現場（事務所から約15分）とのリモート査定を実施させていただきました。

これにより、移動時間が短縮されましたが、２次査定では、郵送でのやりとりもあり、定金まで３日を要しました。５次査定では受検からリモートによる画面での説明（事前撮影動画も確認）やメールでのやりとりを行ったこともあり、半日で定金を受けることができました。

実際にやってみての感想ですが、被災現場の通信環境が悪い場合の対応やリモート査定の環境整備などの課題がありました。今後もこのような状況が続くと想定し、リモートでの伝え方や説明動画の撮影技術向上を図りたいと考えております。



H23～Ｒ２年 災害査定件数

リモート査定状況（県庁会議室）

４．災害に備えて

(1) 災害復旧事業及び水防業務担当者会議

毎年、梅雨入り前に、県内の災害復旧及び水防担当職員及び建設コンサルタント協会員・測量設計業協会員・地質調査業協会員を対象に、災害復旧事業及び水防業務担当者会議を開催しています。

会議では北陸地方整備局､財務局から講師を迎え、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）やリエゾン派遣といった国土交通省からの支援制度や、立会官の業務についてなど､講演していただいております。

また、昨年度からは制度を熟知した災害復旧技術専門家もお招きし、豊富な経験に基づいた様々な角度からのアドバイスをいただきました。

本会議を通じて、災害復旧事業や水防業務の基本的な事項の伝達・確認、北陸ブロック災害復旧事業会議での最新情報の周知徹底を図ることで、防災体制の強化を図っています。

熱心に聴講する参加者（Ｒ元開催状況　Ｒ２は書面開催）

(2) 災害査定研修

大規模災害が発生した場合、災害担当者のみならず、土木職員全員での対応が求められることや、他の土木事務所･市町への応援を要請されることから、県土木職員のうち採用２、３年目の職員と、市町の災害担当若手職員を対象に、災害査定設計書作成の現場実務を習得するため、毎年、災害査定研修を開催しています。令和２年度の研修では、県・市町合わせて約30人が受講し、査定業務を円滑に進める技術と､現場条件を踏まえた対応力を身に付けました。

本研修では、災害復旧事業に必要な基本事項などの講習のほか、班別に分かれて、実際の気象データを用いた災害報告､被災箇所での起終点（復旧延長）の決定、査定写真の撮影、ポール横断による現地測量、工法検討といった査定設計書の作成や、模擬査定官・立会官・事務官による模擬査定演習を実施しています。

災害復旧事業についての研修状況

⑶　対口支援

平成19年の能登半島地震の際には、他県自治体様の多数の職員のご支援をいただきました。

現在、石川県では対口支援として、宮城県・広島県・長野県・熊本県の県庁及び管内市町村へ職員を計６名派遣しています。

派遣は基本的に１年ごとの交代となりますが、戻った職員からは派遣先での貴重な経験を本県の今後の災害復旧に活かせるよう、研修会等を通じて情報共有を図っております。

５．最 後 に

このように、本県の災害復旧に向けた様々な取組みにより、受講者の防災体制強化への意識と、技術力向上への意欲の高さを改めて実感しているところです。

これからも、災害復旧や水防業務に携わる職員の力を合わせ、豪雨などの際には、憂いなく対応できるよう努めてまいります。

～石川県のシンボル～

（防災協会により挿入）

県 旗

「石川」の文字と地形をデザイン化したものです。地色の青は、日本海と豊かな緑・清い水・澄んだ空気という石川の恵まれた自然環境を表しています。（昭和47年10月１日制定）

ほっと石川 コミュニケーションマーク

「ほっと石川」は、石川の観光をアピールするためのキャッチフレーズで、「石川の活力と熱い気持ち」「温泉のあたたかさ」「ぬくもりのある出会いともてなしの心」「ほっとするひととき、くつろぎとやすらぎの石川」を表しています。

県の鳥「イヌワシ」

撮影：須藤一成

白山連峰に生育する日本最大級のワシで、英語でジャパニーズ・ゴールデン。イーグルと呼ばれています。翼を広げると２メートルにもなる雄々しい姿と勇猛果敢な性格は、躍進する石川県を象徴しています。（昭和40年１月１日制定）

郷土の花「クロユリ」

ＮＨＫが「郷土の花」として選んだもので、白山の弥陀ヶ原、室堂平付近に多く自生しています。風雪に耐えて咲く可憐な姿は、広く県民から親しまれています。（昭和29年３月19日）

県の木「あて」

能登地方に多く生育するヒノキアスナロのことで、北陸地方では「あて」と呼んでいます。家具や建築材、輪島漆の素材にも多く使われています。（昭和41年10月１日制定）